

富士市立大淵第一小学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和3年7月8日（木）

体験を通して大昔の暮らしを理解しました。

大昔の日本の暮らしを理解し、遺跡や出土品などの資料から情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけることを目的に出前授業を希望してくださいました。今回は、発掘調査の話、土器の分類体験、火起こし体験の3つの体験を行なうことができました。

◎発掘調査の話

発掘調査にまつわる話や遺物の保存方法の話など、画像を見ながら大変興味深く聞くことができました。地層については未学習だったので、少し難しかったようでしたが、メモをとりながら、意欲的に話が聞けていました。縄文時代や弥生時代についてじっくり考える時間になったようです。



◎火起こし体験

時折雨が降ってくる中での火起こしだったので、うまく火が起きるのか不安がありました。また、風が急に強く吹いてきたりしたので、せっかく火種ができたのに、火口に乗せる前に消えてしまったりして、火起こしの難しさを体験することになりました。それでも、リズムよく弾み車を回し火種を作り、フーフタイムを頑張っていると火が起きました。火が起きたときには、満足そうな顔をしていました。



◎土器の分類体験

縄文・弥生・古墳時代の土器の違いについての話を聞きました。作り方や焼き方、使い方などの違いについて話を聞いた後、静岡県内で発掘された土器片を手に取り、色や表面の模様、厚さなど微妙な土器の違いを話し合いながら分類することができました。楽しみながら学びを深めることができたようです。

